

**男女平等に関する
台東区民意識調査**

－ 概要版 －

**平成30年9月
台東区**

台東区では、平成30年5月に「男女平等に関する台東区民意調査」を行いました。ご協力いただきました区民の皆様には心からお礼を申し上げます。

この調査結果は、台東区の男女平等参画施策に反映させるとともに、今後の行動計画「はばたきプラン21」改定の基礎資料として活用していきます。

● 調査設計

調査地域：台東区全域

調査対象：平成30年4月1日現在、区内在住の満18歳以上の方

標本数：1,800標本

調査方法：郵送配布－郵送回収

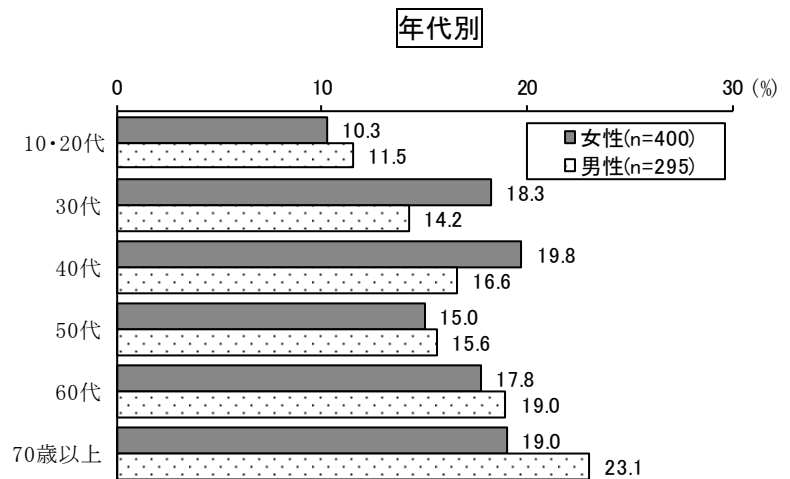
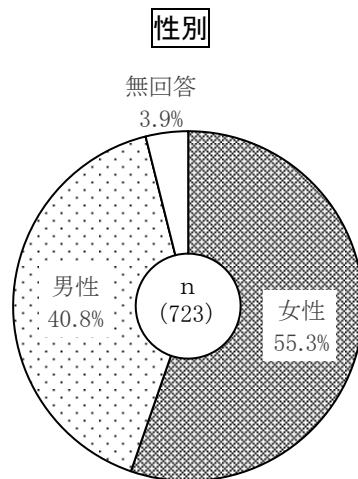
調査期間：平成30年5月7日～5月28日

● 回収結果

調査対象数	有効回収数	有効回収率
1,800	723	40.2%
女性 900	400	44.4%
男性 900	295	32.8%

※ 性別の無回答は28件

● 回答者属性



※ 性別無回答は上記から除外

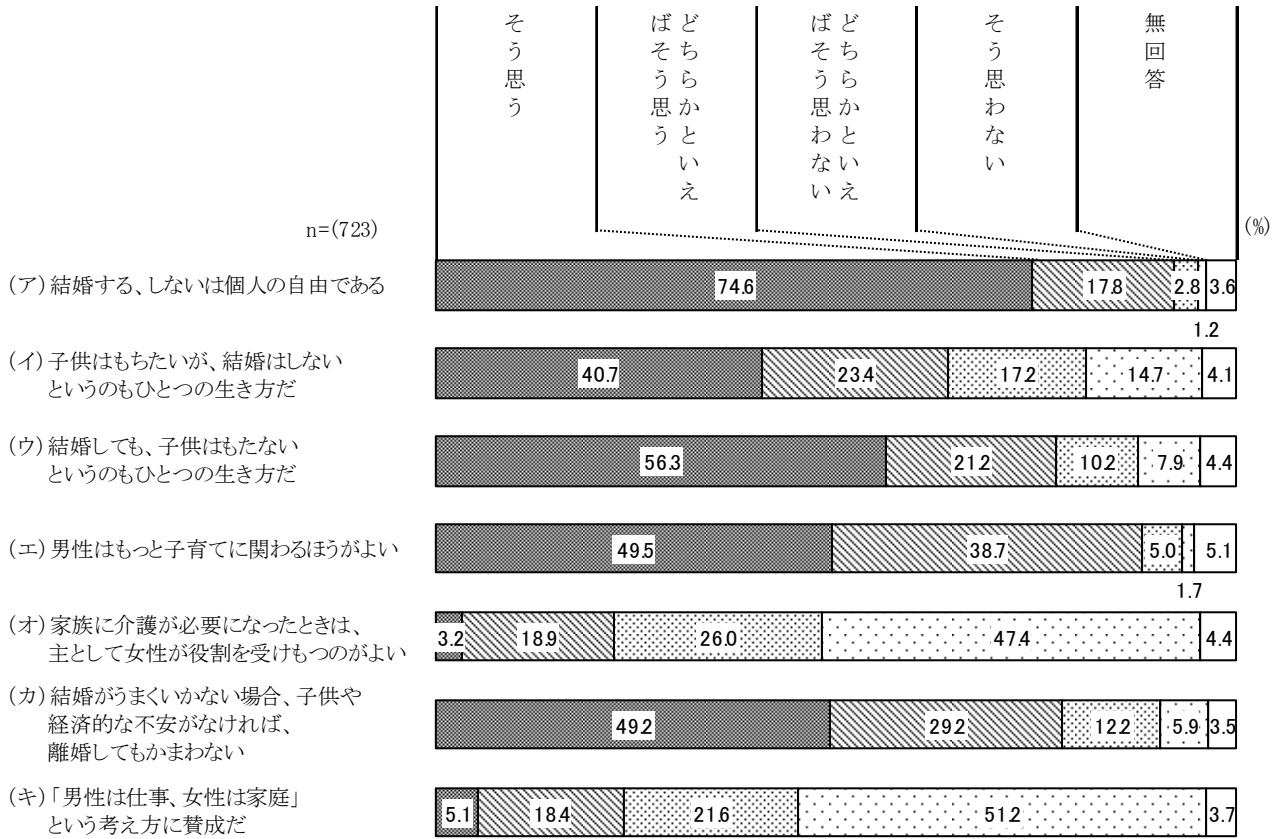
● 概要版の見方

- ・ 図表などに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・ 回答の比率 (%) は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ設問）においても、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・ 複数回答（2つ以上選んでよい設問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・ 本文や図表中の選択肢表記は、短縮・簡略化している場合がある。

1. 家族のあり方に関する考え方



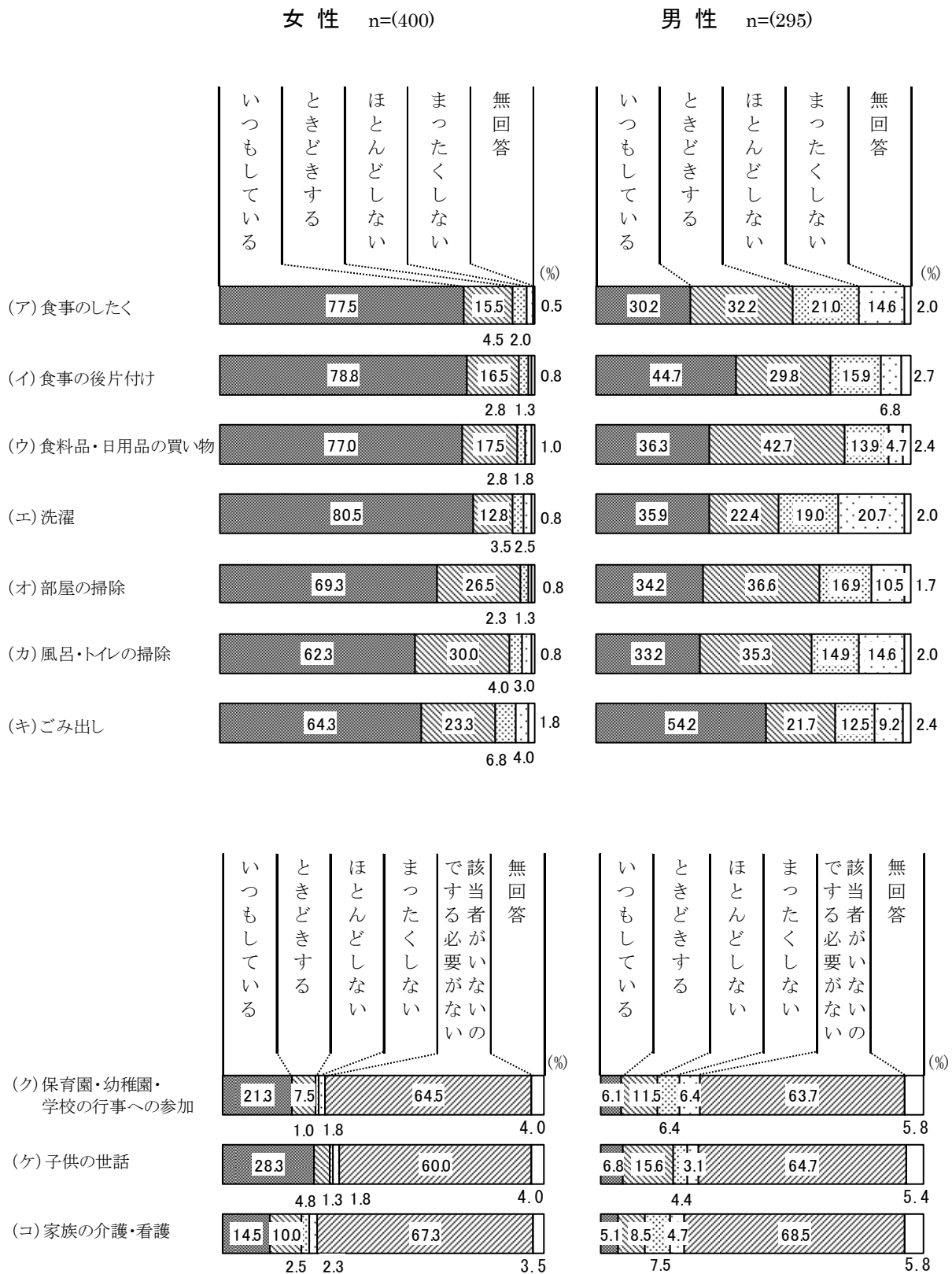
回答者の9割以上が「結婚する、しないは個人の自由である」に肯定的



2. 日常生活の役割分担



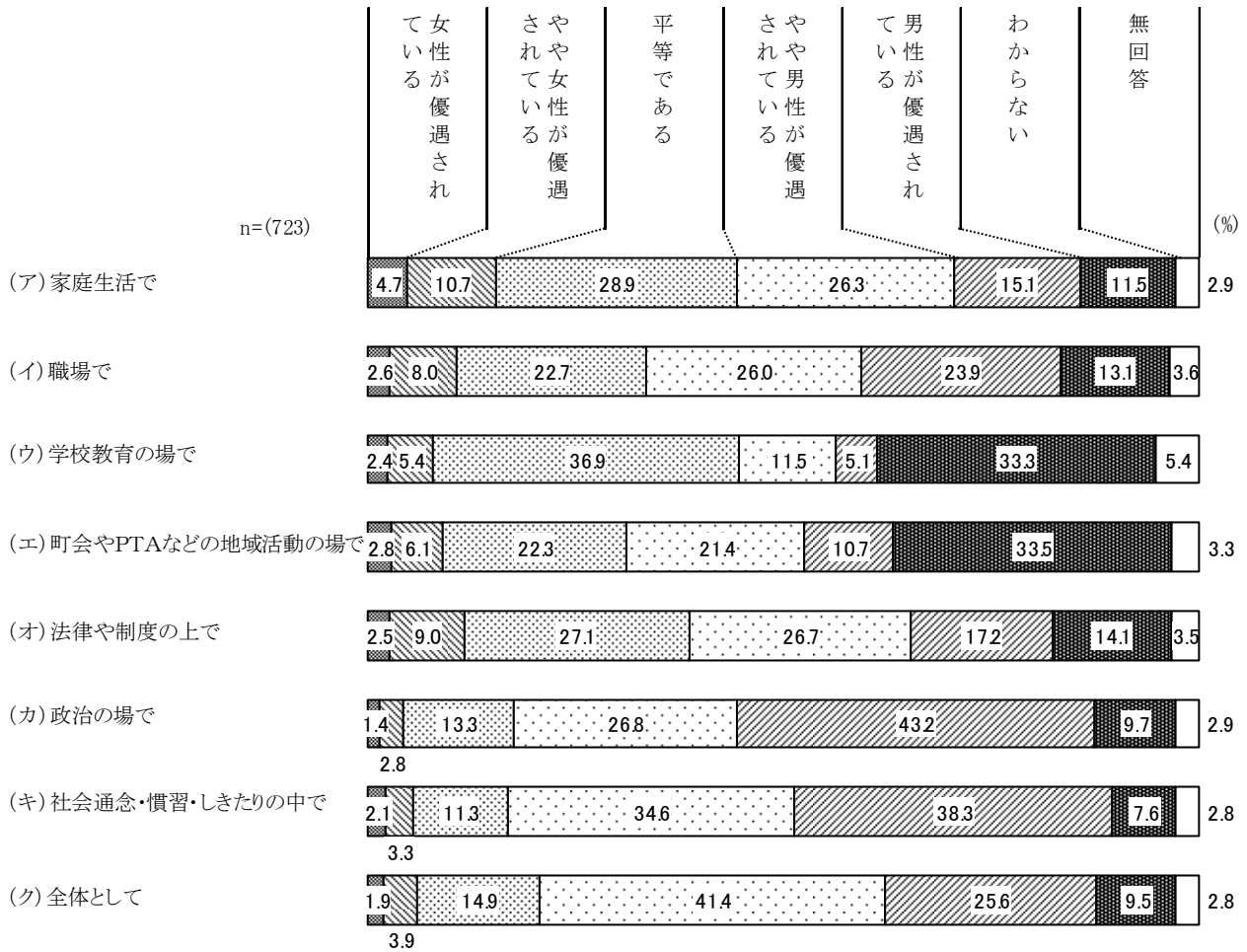
日常の家事全般は、男性より女性のほうが「いつも行っている」割合が高い



1. 分野別男女平等観



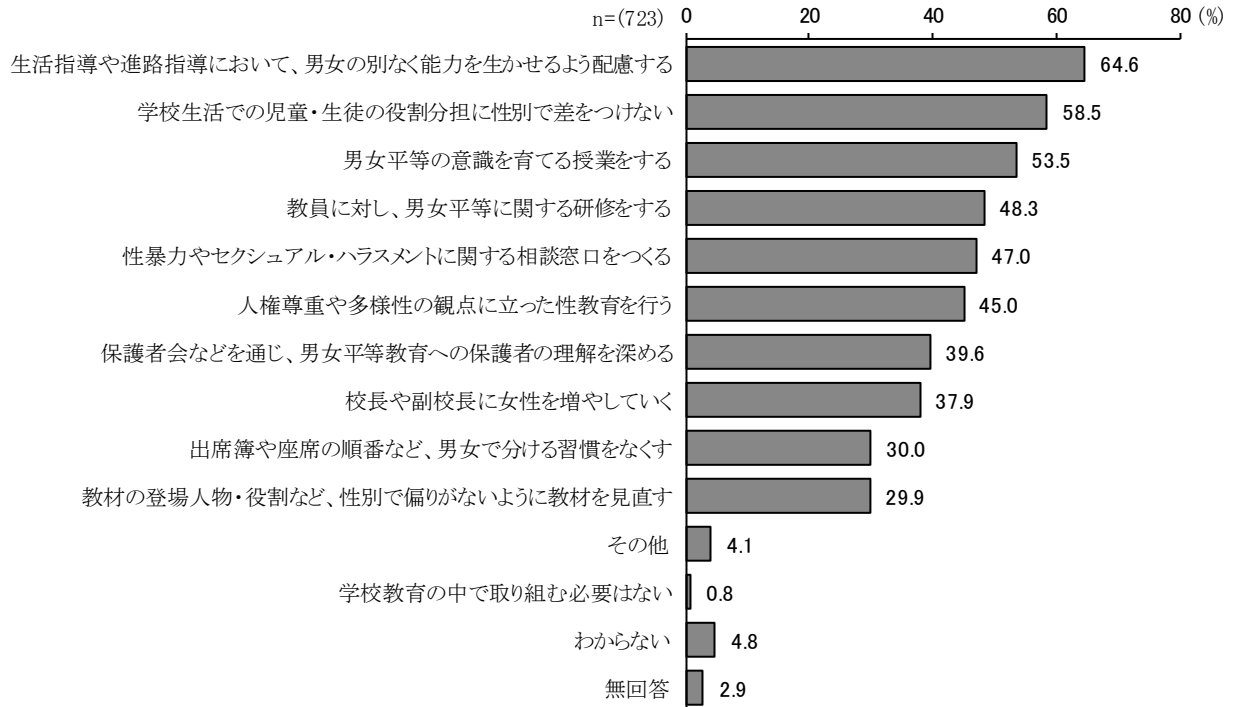
回答者の7割以上が「社会通念・慣習・しきたりの中」、「政治の場」で「男性が優遇されている」と感じている



1. 学校における男女平等教育



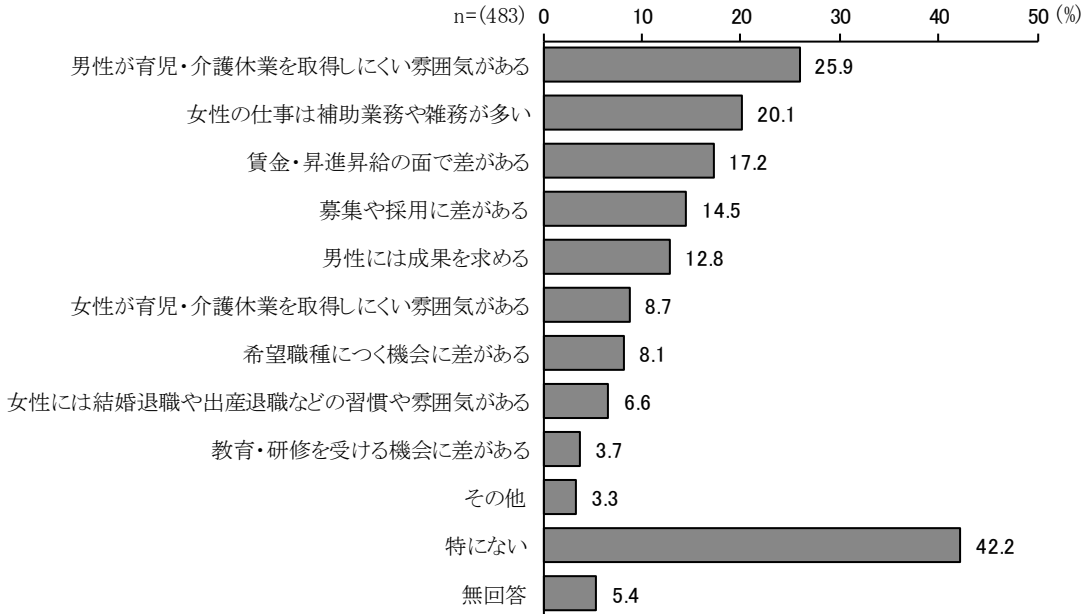
6割以上が学校教育で取り組むべきこととして「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を活かせるよう配慮する」と回答



1. 職場での男女差別



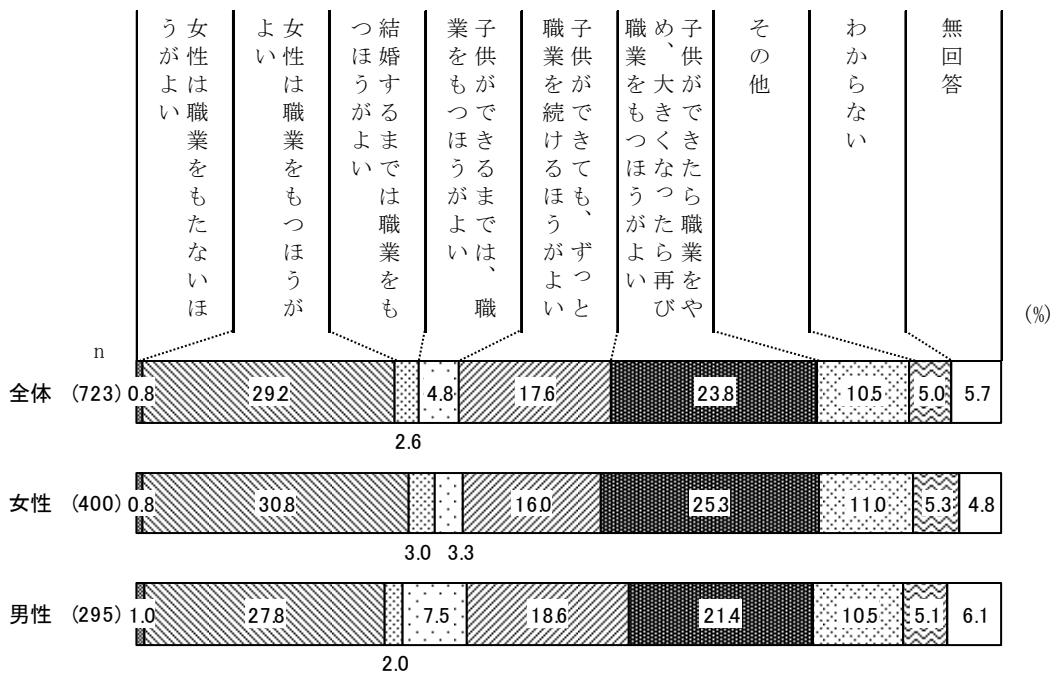
職場での男女差別は「特にない」が4割強。「男性が育児・介護休業を取得しにくい雰囲気がある」、「女性の仕事は補助業務や雑務が多い」は2割を超えている



2. 女性が職業をもつことについての意識



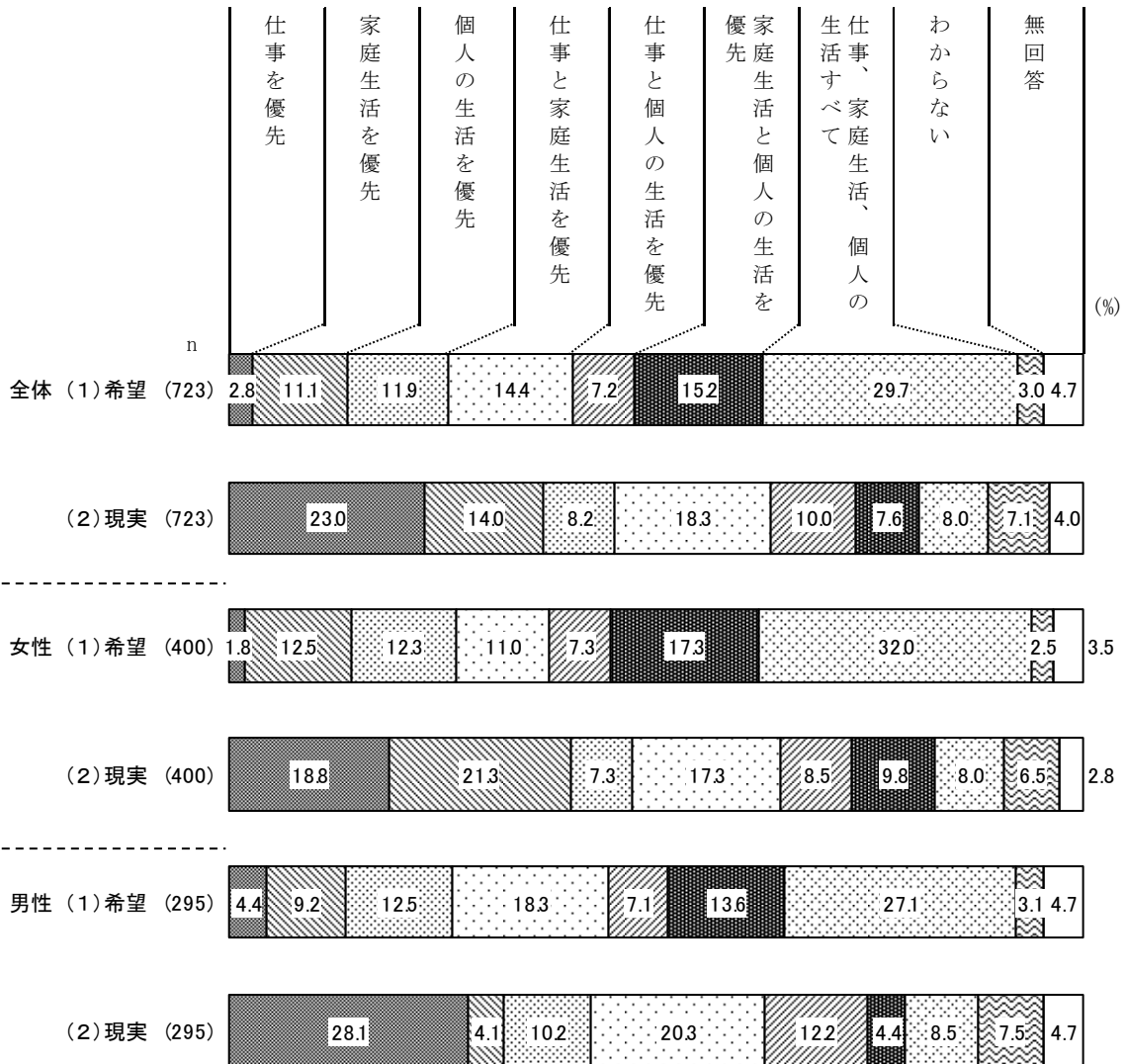
「女性は職業をもつ方がよい」が約3割、次いで「子供ができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」が2割強



1. 仕事、家庭生活、個人の生活の優先度（希望と現実）



生活の優先度について、希望は「仕事、家庭生活、個人の生活すべて」が約3割。一方、現実には「仕事を優先」が2割強

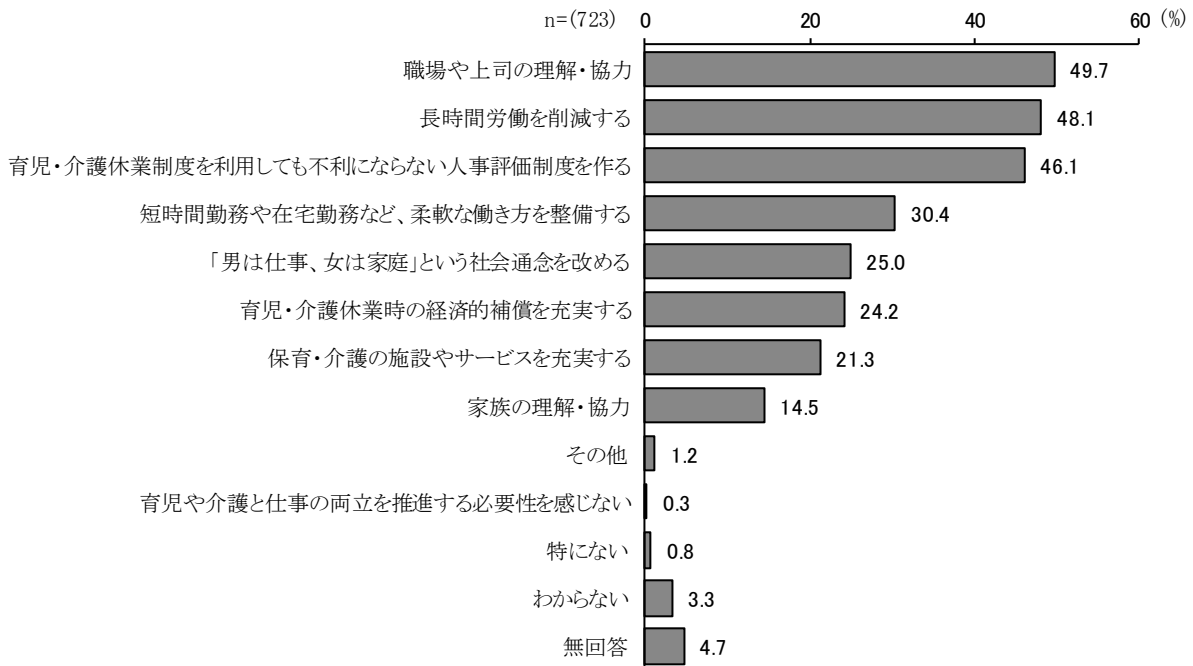


2. 育児や介護と仕事の両立推進のために必要なこと

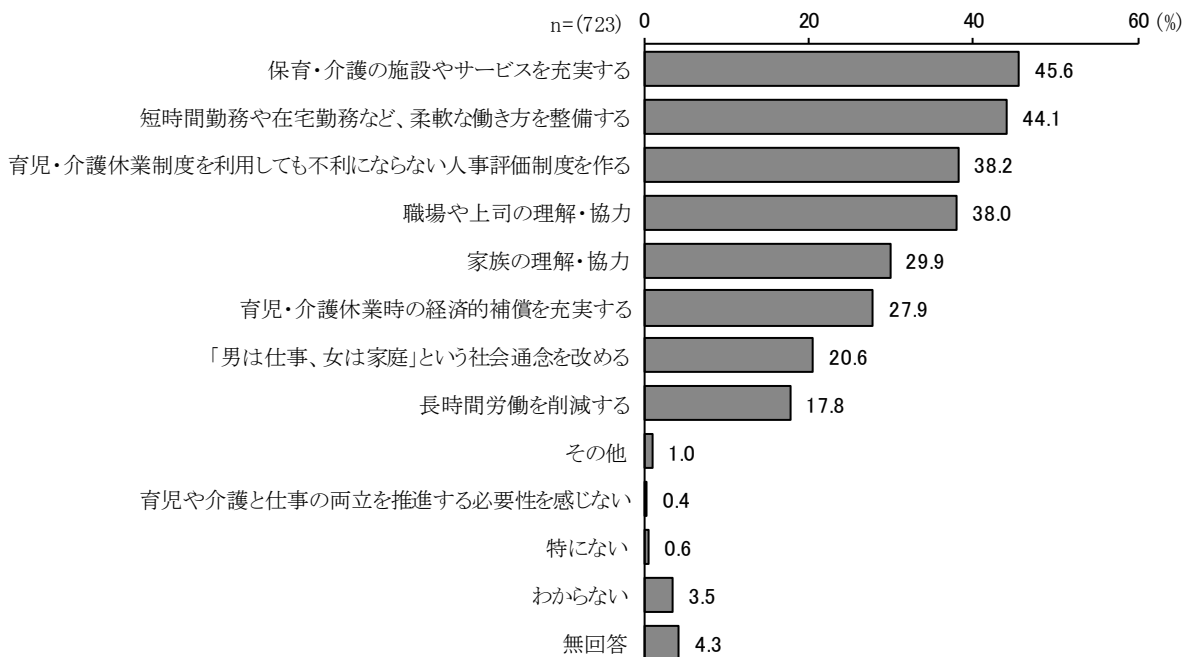


育児や介護と仕事との両立に必要なことは、男性には「職場や上司の理解・協力」、女性には「保育・介護の施設やサービスを充実する」が最も多い

(1) 男性の育児や介護と仕事の両立を進めるために必要なこと



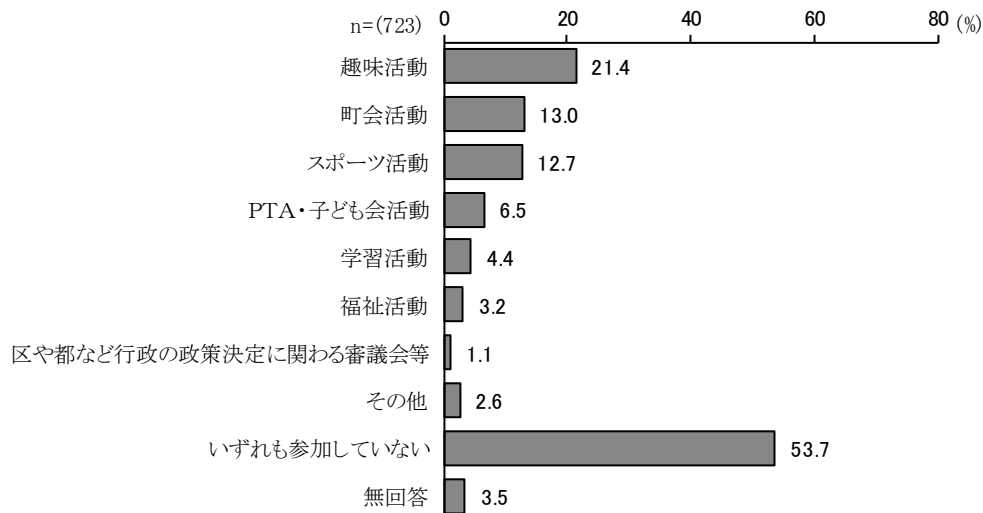
(2) 女性の育児や介護と仕事の両立を進めるために必要なこと



3. 社会参加の状況



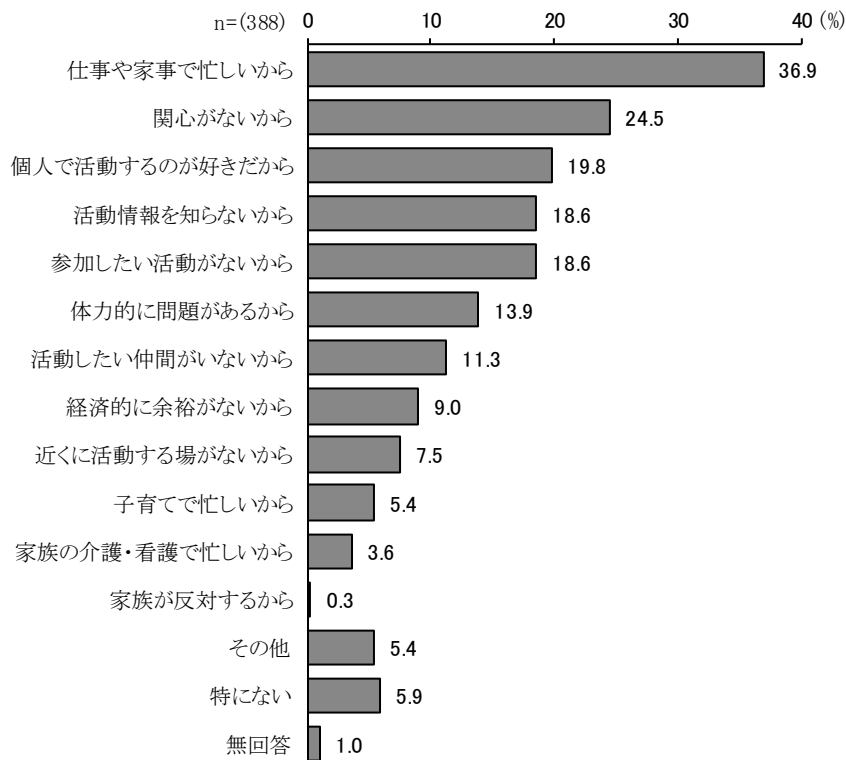
回答者の4割強は、何らかの社会活動に参加している。活動内容では「趣味活動」、「町会活動」、「スポーツ活動」が多い



4. 参加していない理由



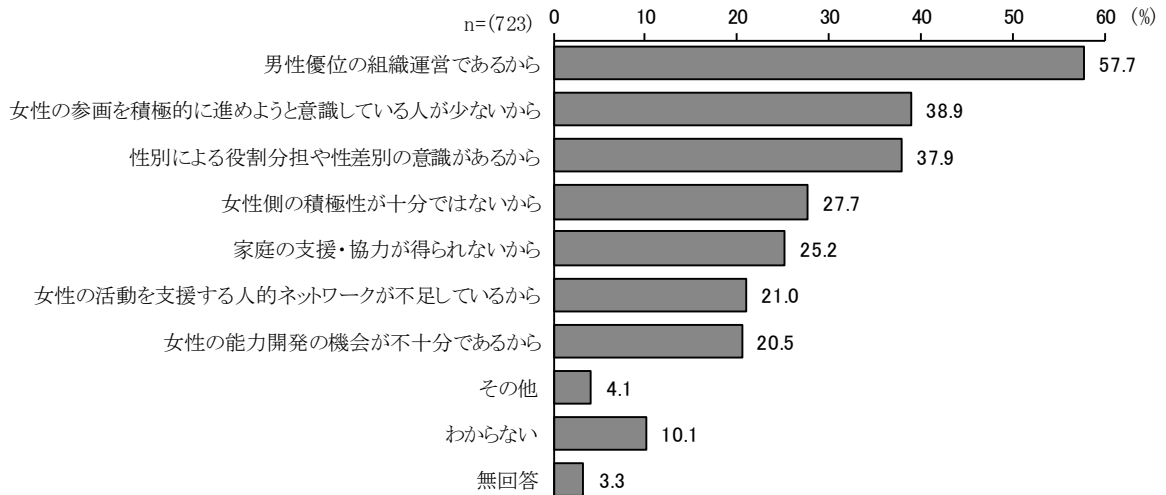
社会活動に参加していない理由は、「仕事や家事で忙しいから」が最も多い



1. 政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由



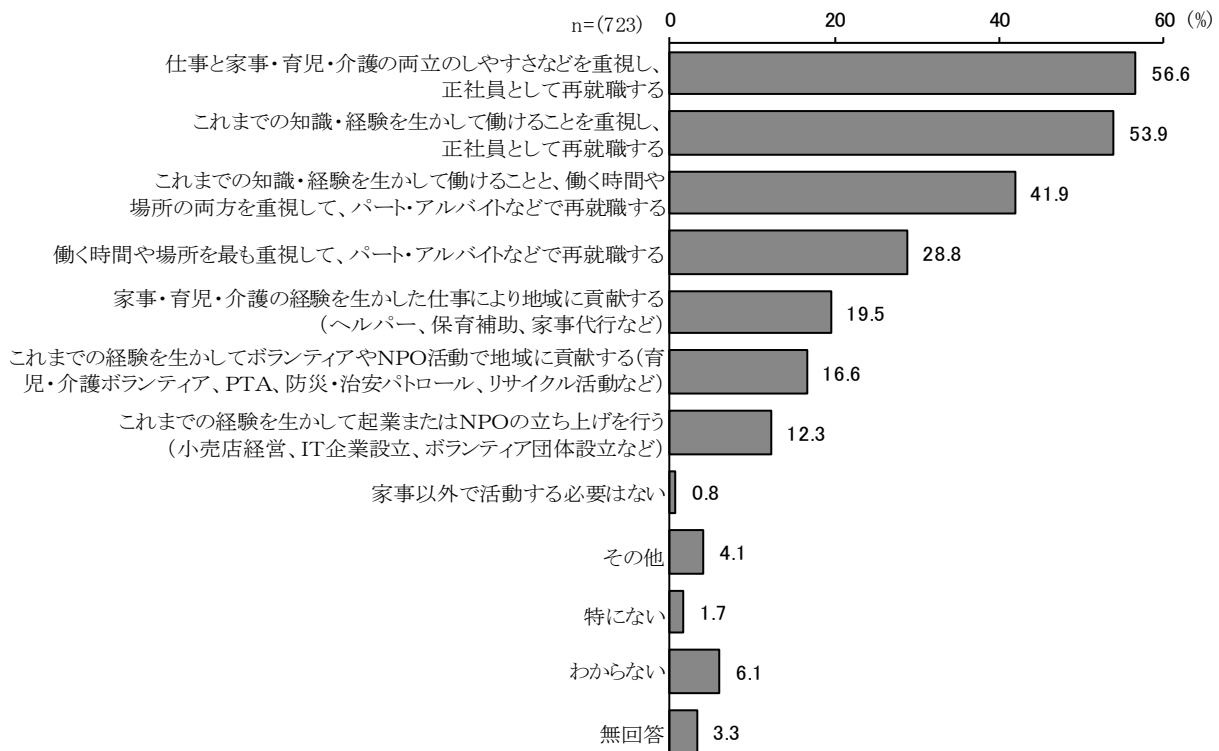
政策や方針の決定過程に女性の参画が少ない理由は、「男性優位の組織運営であるから」が6割弱



2. 離職した女性が再び社会で活動することについての意識

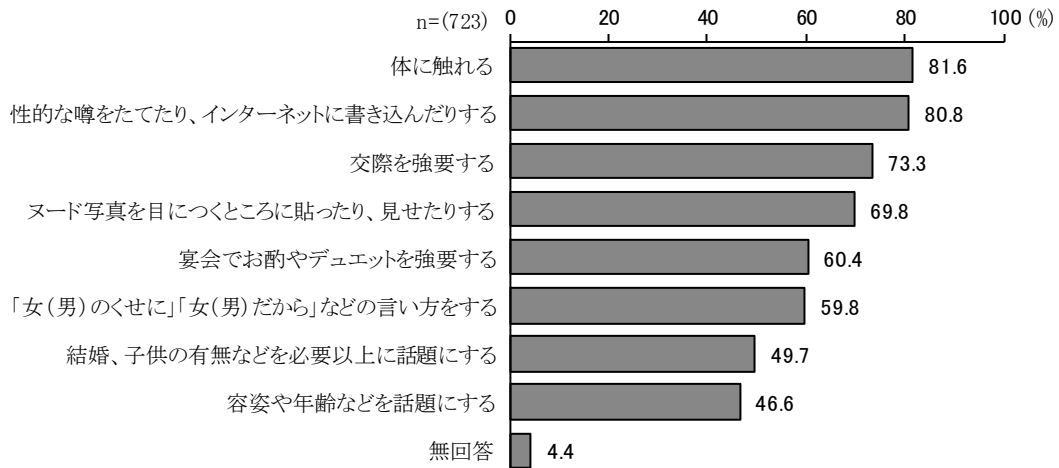


「仕事と家事・育児・介護の両立のしやすさなどを重視し、正社員として再就職する」、「これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する」が5割を超えている



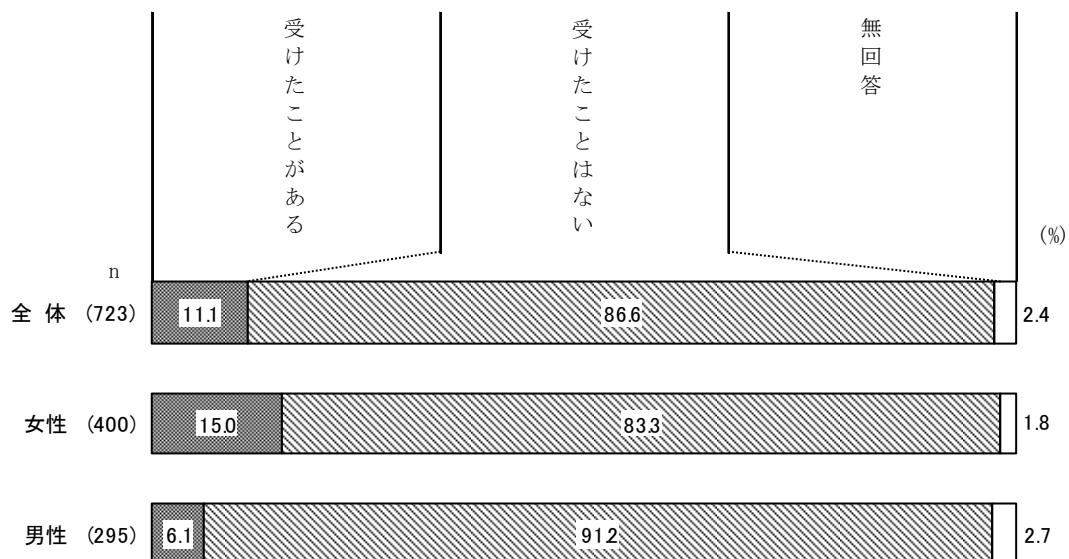
1. セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

▶ 8割以上が「体に触れる」、「性的な噂をたてたり、インターネットに書き込んだりする」ことをセクシュアル・ハラスメントと回答



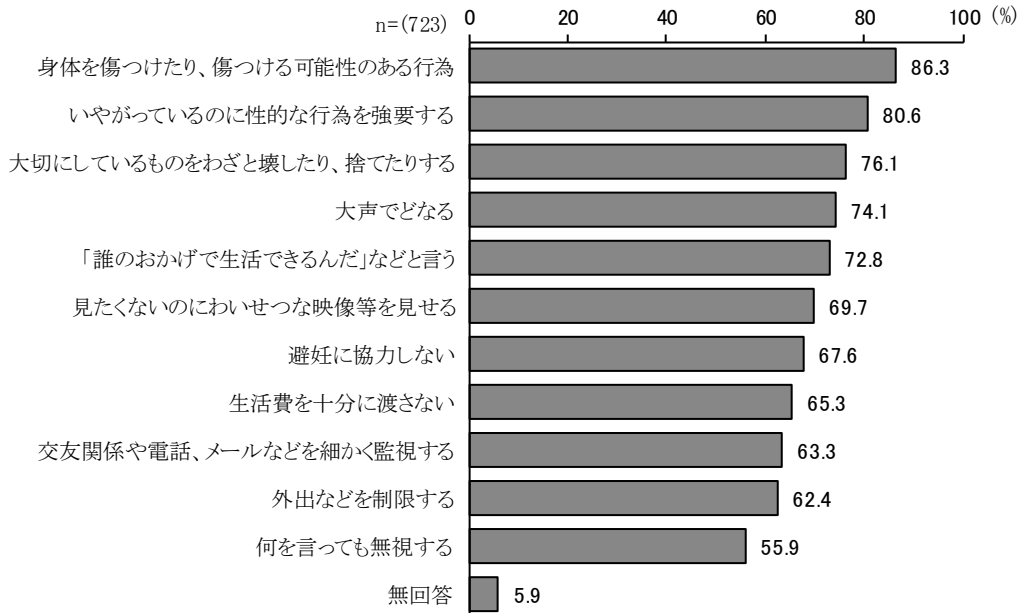
2. セクシュアル・ハラスメントの被害経験

▶ セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたことがあるのは、女性が15.0%、男性が6.1%



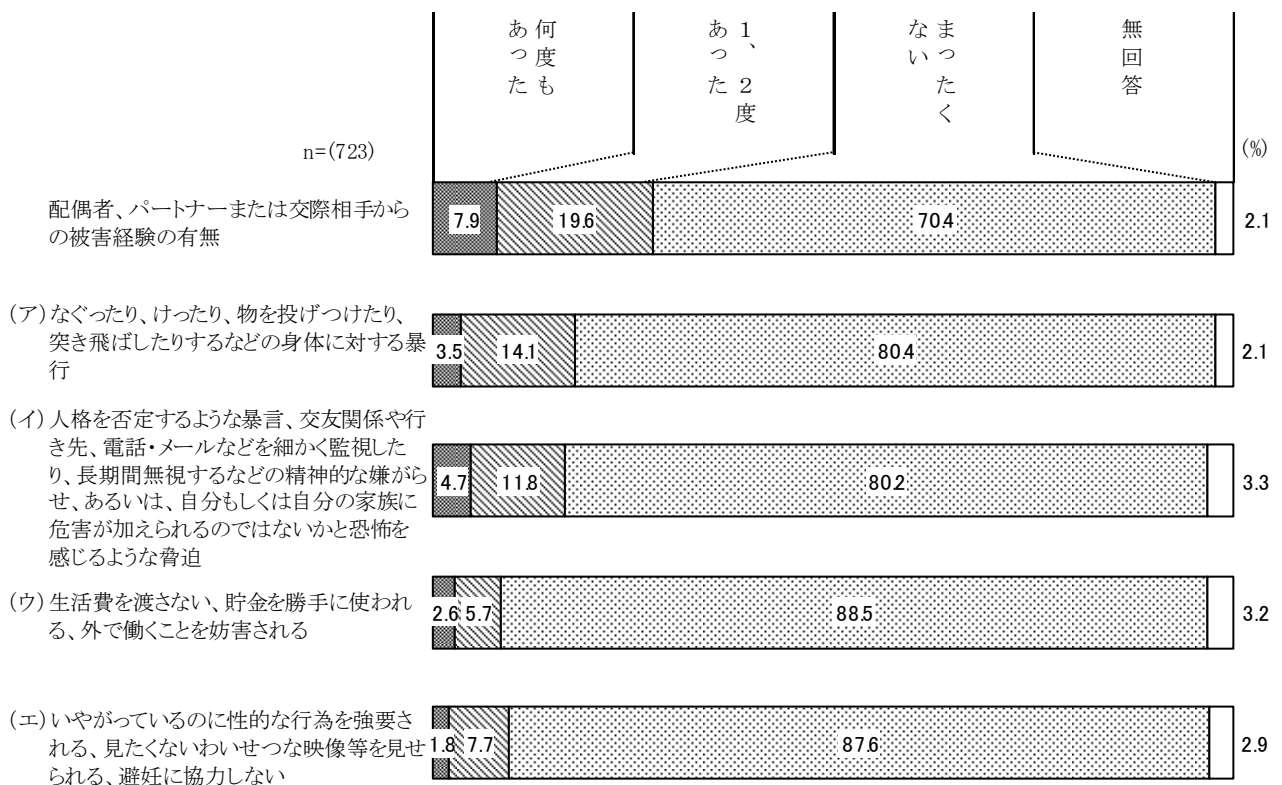
3. ドメスティック・バイオレンス（DV）だと思うこと

▶ 回答者の8割以上が「身体を傷つけたり、傷つける可能性のある行為」、「いやがっているのに性的な行為を強要する」ことをドメスティック・バイオレンス（DV）と認識



4. ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害経験

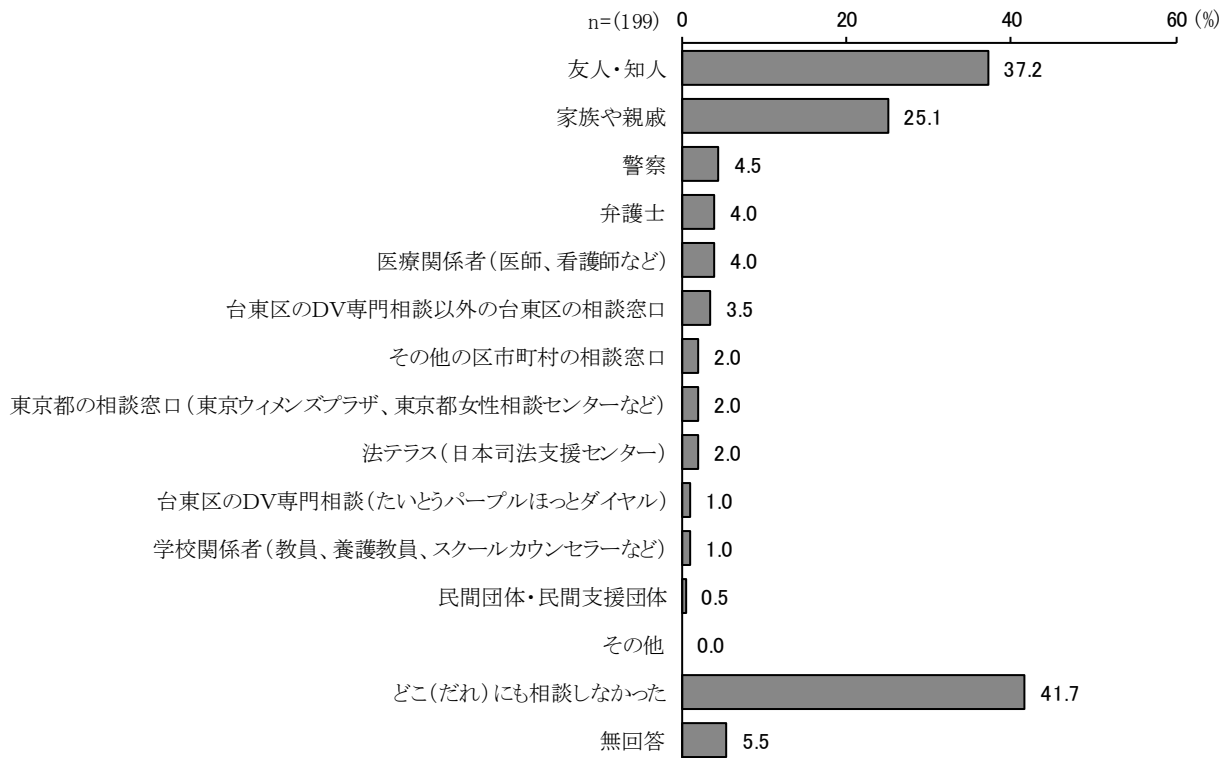
▶ 約4人に1人がドメスティック・バイオレンス（DV）の被害経験がある



5. ドメスティック・バイオレンス（DV）を受けたときの相談先



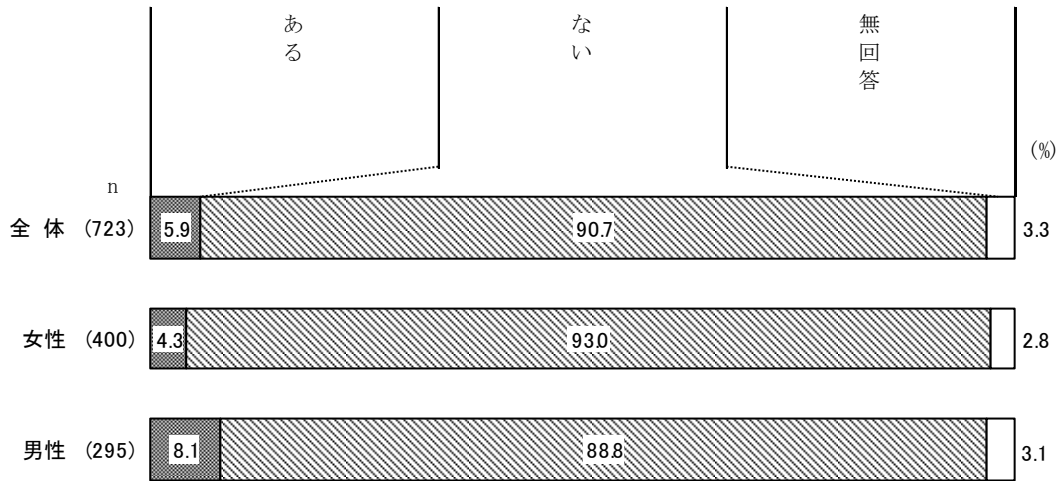
ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害を受けたとき、「どこ（だれ）にも相談しなかった」人が4割強。相談した場合でも、ほぼ「友人・知人」や「家族や親戚」に限られる



1. 自分の性別や恋愛対象などについて悩んだ経験の有無



自分の性別や恋愛対象などについて悩んだ経験がある人は約6%



男女平等に関する台東区民意識調査 ー概要版ー

平成30年9月発行
30年度登録第25号

発行：台東区総務部人権・男女共同参画課
〒110-8615 東京都台東区東上野4丁目5番6号
電話 03-5246-1116

この報告書は古紙再生紙を使用しています。